

日本医療検査科学会第58回大会 ランチョンセミナー5

臨床検査技師よ！ 在宅医療界隈に挑戦を！！

日時 2026年10月8日(木) 12:00～12:50

会場 第6会場(神戸国際会議場 5F 501)

座長

坂本 秀生 先生

神戸常盤大学 保健科学部 医療検査学科 副学長

演者

井越 尚子 先生

日本栄養大学 栄養学部 保健栄養学科 教授

当セミナーは整理券制です。

<事前予約> 予約期間: 2026年9月1日(火) 10:00～9月15日(火) 17:00

<当日予約> 配布場所: 神戸国際会議場 1F ホワイエ

配布時間: 2026年10月8日(木) 9:00～11:00

※整理券はセミナー開始と同時に無効となります。



日本医療検査科学会第58回大会
参加登録

テーマ

臨床検査技師よ！ 在宅医療界隈に挑戦を！！

日本栄養大学 栄養学部 保健栄養学科 教授

井越 尚子 先生

日本の少子化・超高齢化が直面している医療事情は、地域格差は拭えず、医師・看護師始め医療従事者の人材不足、嵩む医療費による財政圧迫、病院の赤字経営など重大な問題を引き起こしている。国は対策として、地域包括ケアシステムを構築し、各地域全体で個人の健康と生活を支える体制への転換を推進し、日常は在宅医療・訪問診療が行われ、高度医療を行う病院と役割を分担した機能病院とが連携し、医療資源を有効に活用しながら切れ目ない医療提供を行う構想である。ここ10数年間で在宅支援を担う診療所や病院は増え、在宅チーム医療が繰り広げられているが、この輪に臨床検査技師が描かれることは少なく、非常に残念である。また、臨床検査技師養成の教育指導は令和4年度より、在宅医療や認知症について講義は必須となり、臨地実習では在宅医療や訪問診療が含まれる場合も想定されている。

これからは病院を地域とし、自宅を診察室と捉え、<Hospital at Home>と考えるべきで、病院に遜色ない検査を提供できるのは、私たち臨床検査技師である。タスクシフトもあり、POCTの種類も増え、特にエコーは聴診器代わりに扱う職種も増えニーズは高い。検体系の検査は、在宅医療機関単独の場合、患者のベッドサイドでなくても、検体を持ち帰って測定できる。在宅先の件数次第とコスパとの天びんではあるが、試薬調整なく、精度が安定している機器システムを設置すれば、より早く且つより的確な対応に繋がるメリットは大きい。

在宅医療は病院で見る臨床とは少し異なる。キュアマインドでなく、ケアマインドが必要である。臨床検査技師がどう関わり、どう期待されているかを啓蒙・提案してきた立場として事例紹介する。活躍中の技師も、転職や退職も含め、病院組織から1歩飛び出して挑戦してほしいが、需要と供給バランスが取れないのも現状で、在宅医療における課題も紹介したい。